

伊豆市制20周年記念

市勢要覧

2024



自然・歴史・文化が薫る
誇りと活力に満ちた
クロスロード
「伊豆半島の新基軸」・伊豆市

—いつまでも住み続けたい 次世代に笑顔をつなぐ礎づくり—



20th
Anniversary

伊豆市 20th anniversary

伊豆市

CONTENTS

- ・市長あいさつ …… 03
- ・自然 …… 04
- ・歴史 …… 06
- ・文化 …… 08
- ・暮らし …… 10
- ・20年のあゆみ …… 12
- ・市政の概要 …… 14
- ・伊豆市の概況 …… 15



伊豆市は伊豆半島の中央部に位置し、直線距離で東京から約100km、静岡市から約60km。豊かで美しい自然環境に恵まれ、南側は天城山系の山並み、西側は青く澄んだ駿河湾を望む風光明媚なエリア、中央部は天城山に源を発する狩野川が流れ、そして北部には田方平野が開けています。年間を通じて温暖な気候で、四季折々に花が咲き乱れ、良質な温泉、名所旧跡と観光資源に恵まれた観光地です。

伊豆市制が20周年を迎え、伊豆市が20歳、昔でいうところの成人式となりました。天武9年(680年)に駿河国から分離独立して伊豆国が設けられて以来、1,300年余りを経て地方行政組織の名称に「伊豆」が冠せられたこととなります。4町の合併でしたが、天城山、狩野川、駿河湾を包摂していたことから決められたものでしょう。まさに、伊豆市は伊豆半島の特徴の多くを持ち合わせています。

川端康成は「伊豆序説」において『伊豆半島全体が一つの大きい公園である。一つの大きい遊歩場である。つまり、伊豆は半島のいたるところに自然の恵みがあり、美しさの変化がある。』と表現しました。私は、これこそが私たち市民が最も大切にすべき伊豆市の姿だと思います。自然の恵みと美しさの変化を守り続け、後世に伝えてまいります。私たちの生活を支える産業は、時代の変化に応じて変えていくことになります。金鉱は観光施設に変化し、森林は材木や炭の生産から防災、レクリエーションなどの多様な役割に転じてきました。

今年20歳を迎える市民が50歳になるときに、伊豆市も50歳。どんな伊豆市になっているでしょうか。

伊豆市長 川端 豊

第3回伊豆市を彩る(色撮る)写真コンテスト入選作品 緑の大賞 作品名:「苔生す倒木」 撮影者:中西 宏嘉

自然

伊豆市は広い市域の至るところに心を打つ景色が溢れており、『海』『山』『川』と四季が織りなす美しい自然を常に感じることができます。

そんな自然を活かしたアクティビティも豊富で、ハイキング・梅狩り・キャニオニング・海水浴・とびうおすくい・鮎釣りなど自然を一杯体感し、楽しむことができます。

『自然』と笑う



キャニオニング CANYONING

キャニオニングとは、自分の体を使って渓谷を泳いだり、滑り降りたりして下っていくアウトドアスポーツです。伊豆の美しい渓流を五感で感じることができます。



土肥海水浴場 (駿河湾)

遠浅で波静かな西伊豆最大のビーチで、海に沈む夕陽も美しい海岸です。6月の夜には、海上での「とびうおすくい」も体験できます。



kettle



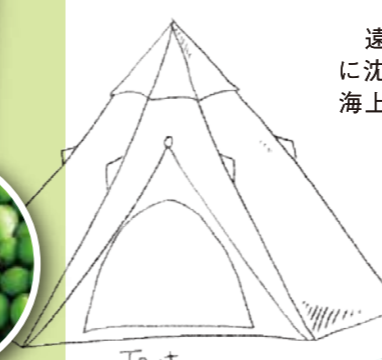
浄蓮の滝

演歌にも歌われた伊豆最大級の名瀑で、「日本の滝100選」に選ばれています。滝の横には溶岩が冷えて収縮する際にできる柱状の岩「柱状節理」が美しい景観を作り出しており、周辺には、国内で浄蓮の滝と九州南部でしか見られない「ハイコモチシダ」が群生しています。



鮎釣り (狩野川)

友釣り発祥の川として全国的にも有名な狩野川での鮎釣りは、自然に恵まれた伊豆市の中でも代表的なアクティビティです。狩野川に魅せられ移住された方も多くいらっしゃいます。



Tent



梅林

梅の花は、2月上旬から3月中旬が見頃で、それに合わせて梅まつりが開催されます。

伊豆地域最大の「伊豆月ヶ瀬梅林」では、約6.2haの梅林に1,500本の梅が咲き誇り、6月初旬には梅狩りを楽しむことができます。

「修善寺梅林」では、樹齢100年を超える古木をはじめ20種、1,000本の紅白梅が咲き乱れます。



Sierra Cup

八丁池

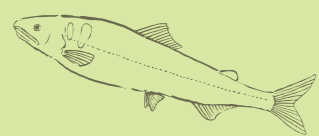
「天城の瞳」と呼ばれる標高1,173mにある池で、周囲が八丁(約870m)あるところから名付けられたそうです。

付近は天城原生林に囲まれ、ヤマザクラ・アセビ・ツツジ・モミジなどが茂り、新緑や紅葉も見事で、ハイキングコースとして人気のスポットです。天然記念物モリアオガエルの生息地としても有名です。

恋人岬

岬の先端にある展望デッキは180度を超えるパノラマが広がり、富士山や駿河湾を一望できます。

展望デッキにある、愛の鐘「ラブコールベル」を3回鳴らしながら愛しい人の名を呼ぶと愛が実るといわれており、伊豆の恋愛パワースポットとして、恋人たちや観光客でにぎわいます。



【上白岩遺跡】

伊豆市は、温暖な気候に恵まれたことで、古くから人々が生活を営んできたことが、国指定史跡の上白岩遺跡から見るすることができます。

3000年
～4000年前

縄文時代中期～後期

縄文時代中期から後期にかけての配石遺構や住居跡等の複合遺跡です。完全な形で残された環状列石の発見は東海地方で初めてのことであり、極めて貴重なものといわれています。

【伊豆市資料館】

上白岩遺跡に近接し、遺跡からの出土品のほか、伊豆市の産業や文化を知る民俗資料を多数展示しています。



【独鈷の湯】



【指月殿】

【修禅寺】

平安時代に創建。鎌倉幕府二代将軍源頼家が幽閉された事でも知られ、1,200年もの歴史の中で様々な物語が生まれました。

807年～

平安時代初期

修善寺温泉発祥の寺で、温泉場の中心にあります。大同2年(807年)に弘法大師によって開創されました。

周辺には、桂川で病気の父の身体を洗う少年の孝心に心打たれた弘法大師が、持っていた仏具で川の岩を打ち霊泉を湧出させたといわれる「独鈷の湯」や、修善寺で暗殺された源頼家の冥福を祈って母北条政子が寄進した経堂である「指月殿」があります。



『歴史』に思う

【狩野城】

伊豆一円に勢力を振るった狩野氏の本拠地として約400年にわたって栄え、子孫の狩野派は幕府の御用絵師として活躍しました。

1100年頃～
1500年頃

平安時代後期



平安時代後期(1100年頃)に狩野氏によって築かれた城です。

狩野茂光親子は、源頼朝の旗揚げに協力、数々の功績を挙げ、伊豆を代表する武将として活躍しました。北条早雲に敗れ開城しましたが、一族は小田原に移り、後北条氏の重臣として要職を歴任しました。



【天城山隧道】

川端康成の名作「伊豆の踊子」にも登場する石造道路トンネルです。切り石をアーチ状に積み上げ、工期13年を費やして明治38年に完成しました。日本に現存する最長の石造道路トンネルで、国の重要文化財に指定されています。



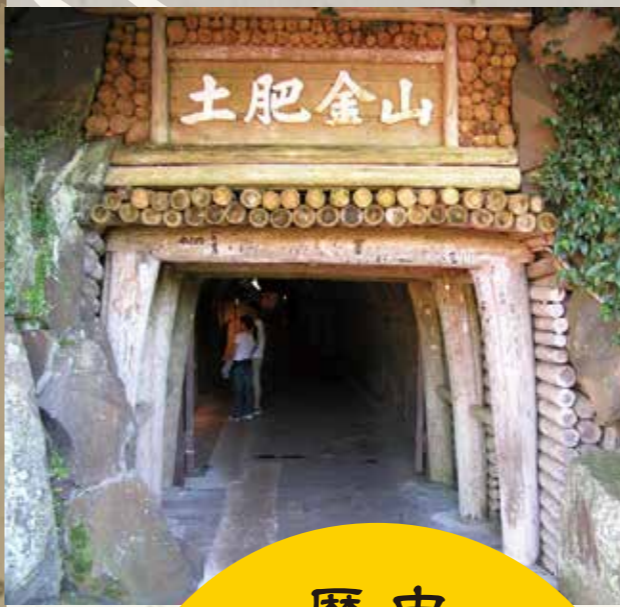
【土肥金山】

二度の黄金期を経て、佐渡金山に次ぐ生産量を誇った伊豆最大の金山で、推定産出量は金40t、銀400tといわれています。

第1期 / 1370年代～1625年

第2期 / 1906年～1965年

室町時代から採掘されていた金銀鉱石は、江戸時代に隆盛を極め、全国から鉱夫や職人等が集まり、街には人家が軒を並べ、「土肥千軒」と称されました。採掘された金銀は品質に優れ、千石船で駿府や江戸へ送られるなど、幕府の財政を賄う大変重要な金山として位置づけられました。明治30年代には、近代鉱業技術により再開され、日本有数の金山として繁栄しましたが、昭和40年に閉山、現在は観光施設としてにぎわっています。黄金館に展示されている250kgの金塊は、世界最大としてギネス世界記録に認定されました。



歴史

源氏一族にまつわる歴史、寺社に伝わる古の伝説、小説の舞台となる温泉情緒。豊かな自然とそこに伝わる物語は、人々を惹きつけます。

古代・中世・現代と、人々を魅了してやまない歴史の浪漫が、今も旅人を誘います。



がんつきてんしょうきんこう
【竈付天正金鉱】

安土桃山時代の天正年間に開発された現存する伊豆最古の手掘の金鉱です。全長100m程の坑道に、空気の対流・換気を考慮した逆さ階段など、当時の土木技術が残っています。坑道最深部に金鉱脈を祀る竈があることから、竈付天正金鉱と名付けられました。

文化

豊かな自然や良質な温泉に魅了された幾多の文学者や芸術家が伊豆を愛し、その魅力の虜となりました。近年では、『静岡水わさびの伝統栽培』が世界農業遺産に認定され、『東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会』の自転車競技が開催されるなど、現代の文化的価値も注目されています。

修禅寺彫

伊豆産の良質な孟宗竹に彫刻刀で経文や仏画・漢文や詩歌などを彫る修禅寺彫。昭和初期、鍵和田松翠翁が修禅寺の門前で彫り仕事を始めたのが最初です。その後、技のすべてを受け継いだ娘の松琴の作品が、国内外の多くの展覧会において、高い評価を得ていきました。流麗さと艶を含む彫竹の独創性と格調高い作品は、書家の植村和堂、詩人の草野心平といった著名人や、修善寺温泉を訪れた多くの観光客に愛されました。

伊豆を愛した文学者

岡本綺堂

二代將軍頼家の暗殺という歴史上の大きな事件と形見である古面に、頼家への悲哀の感が湧いた綺堂は、「修禅寺物語」を書きあげました。明治44年に新歌舞伎「修禅寺物語」が明治座で初演されると大変評判を呼び、綺堂の代表作となりました。



頼家の面

夏目漱石

修善寺での病氣療養中に吐血し、一時は意識を失い危篤状態に陥りました。この「修善寺の大患」が漱石の心に転機をもたらし、以後の作品に大きな影響を与えたといわれています。

若山牧水

土肥を詠んだ多くの短歌や随筆があり、西伊豆を舞台にした最初の文学者といわれています。



修善寺紙

修善寺の紙谷地区に伝わる「修善寺紙」。古くは「紫式部日記」や「平家物語」にも登場します。江戸時代には「色よし紙」と呼ばれ、幕府の御用紙に採用されました。伝統工芸の再興と伝承に取り組む地元有志によって、昔ながらの製法が継承されています。

天城連峰太鼓

平成元年に旧天城湯ヶ島町の有志によって結成された和太鼓演奏集団です。平成27年に「世界和太鼓打ち比コンテスト」で最優秀賞と文部科学大臣賞を受賞、令和5年に同コンテストの歴代優勝団体による「グランドチャンピオン大会」で優勝し、世界一となりました。



井上靖

天城湯ヶ島で幼少期を過ごし、その当時の生活が名作「しろばんば」となりました。「私の自己形成史」の中で、「この少年時代を過ごした原籍地の伊豆が私の本当の意味での郷里であり、ここで私という人間の根底になるものはすべて作られたと考えていいようである」と記しています。



川端康成

自身の伊豆での実体験を元に、湯ヶ島の旅館に4年半滞在中に完成させた「伊豆の踊子」をはじめ、伊豆の自然や人々の人情を題材に、数々の名作を生んでいます。

『文化』を慈しむ



東京2020大会自転車競技伊豆開催をレガシーとするため、自転車を活用した「自転車まちづくり」を進めています

2021年夏、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の自転車競技（トラック・マウンテンバイク）が、「伊豆ペドローム」及び「伊豆マウンテンバイクコース」で開催されました。伊豆市を舞台に繰り広げられた選手たちの熱く激しい戦いは、人々に大きな興奮と感動を与え、歴史に残る記録が刻まれました。大会前には、市内で「聖火リレー」や「聖火採火イベント」が行なわれるなど、市民一体で大会を盛り上げました。これらの歴史を末永く後世に伝えるため、開催会場のほか、修善寺駅と独鈷の湯公園に「レガシー銘板」を設置しました。



ランニングバイク出前教室

主な自転車まちづくり事業

- ・サイクルステーションの運営
- ・ランニングバイク、自転車乗り方教室の開催
- ・自転車購入補助金
- ・公用自転車の運用
- ・競技会場の聖地化に向けた活用・利用促進

レガシーを未来へ。

— 東京2020大会開催記念誌 —
自転車競技の開催決定からおよそ6年間の様々な事業、子どもたちや市民の皆さんの取組など、伊豆市の軌跡を集約した記念誌を作成しました。市内小中・義務教育学校に配布したほか、市内の図書館に配架しています。



『静岡水わさびの伝統栽培』が世界農業遺産に認定

天城山の清らかな湧き水と豊かな自然環境の中で育まれるわさびは、高品質で国内屈指の生産量を誇ります。市内で開発された畳石式栽培方式の普及や地域文化の形成などが評価され、平成30年に「静岡水わさびの伝統栽培」が世界農業遺産に認定されました。伊豆市が世界に誇るわさびと豊かな自然環境を将来に受け継いでいくため、更なる生産振興やわさび田周辺環境の維持・保全等に取り組んでいきます。



伊豆市の名産

しいたけ

伊豆のしいたけは肉厚で味、香りともによく、全国の品評会で毎回上位入賞を果たすなど、上質なしいたけとして有名です。



鮎

「友釣り」発祥の川である狩野川で獲れる鮎は塩焼き以外にも、刺身や握り寿司、鮎飯などにしてもとても美味しく召し上がれます。



自びわ

土肥の気候のみに適する品種で、傷みやすいため広く流通していない幻のびわ。普通のびわより実が白く、マイルドな味わいです。



海産物

伊勢エビ、アワビ、サザエなど駿河湾の海の幸が豊富。中でも八木沢海岸で採れる良質な天草で作られるところてんは、コシの強さと甘みが一味違います。



イズシカ

獣害対策のため捕獲されたシカを食肉加工センター「イズシカ問屋」で加工し、地域ブランドとして提供しています。国産ジビエ認証を取得した確かな品質管理と優れた精肉技術により、柔らかく甘みのある肉質が特徴で、市内の精肉店等で販売されています。



うめ

梅の実狩りや梅シロップ、梅ジャムなどの加工品も人気です。



無形民俗文化財



流鏝馬

土肥神社例大祭（土肥）市指定無形民俗文化財の「さつまころがし」、土肥太鼓、流鏝馬を模した神事が奉納されます。また仮装行列も行なわれ、収穫の秋にふさわしい豊作への感謝と祈願のお祭りです。



神楽鳥刺し踊り

中原戸秋祭り（中原戸）200年前から中原戸区に伝わる民俗芸能です。「曾我物語」を狂言風にしたもので、ユーモラスな台詞と軽快なテンポの祭舞が楽しく演じられます。

三番叟

城山神社の祭典（本立野ほか）秋には五穀豊穡などを願い、各地の神社に奉納されます。江戸時代初期、大久保長安が金山奉行として伊豆を訪れた時に伝えられたといわれています。



その他の無形民俗文化財：熊野神社奉納しゃぎり（熊坂）、春日神社の三番叟（日向）、加殿子神社の神楽（加殿）、一之宮神社の三番叟（柏久保）、天王社の涼宮まつり（古川）、天神社の三番叟（牧之郷）、車切（原保）、式三番叟（菅引）

暮らし

伊豆市では暮らしを『住む』『育む』『繋がる』『働く』という観点で捉え、様々な支援を行なっています。市民へのサポートはもちろん、移住を考えられている方が不安に思う、仕事や地域との繋がりについても対応できるよう、各種制度に力を入れています。



知って
おきたい!

移住で気になる Q&A

Q.車がなくても生活できますか?

A.修善寺駅周辺の一部に限れば車がなくても生活できます。しかし、日々の買い物や通勤、緊急時の対応等を考えると、間違いなく車があった方が良いでしょう。車があれば、伊豆半島最大の魅力である海・山・川といった様々な自然を楽しめます!

Q.病院はありますか?

A.病院や診療所が市内に点在しています。隣の市には大学病院があり、大きなケガや病気の際にも最新の治療を受けることができます。

Q.住まいを紹介してもらえますか?

A.市の「空き家バンク」をご覧ください。また、市役所や移住情報センター「9izu」にお気軽にお問い合わせください。

Q.どのような仕事がありますか?

A.温泉観光地であることから、旅館やゴルフ場といった観光関連の仕事のほか、医療や介護など様々な職種があります。資格や経験を問わない仕事も多くあるので、仕事を見つけることは難しくありません。起業される移住者の方も増えています。

住む



life of

【移住定住促進補助金】

市内で新たに住宅を取得した方に補助金を交付します。
・夫婦のいずれかが40歳以下の世帯、または中学生以下の子どもがいる世帯：最大100万円（小学生以下の子どもがいる場合は、一人につき10万円を加算）
・上記以外の世帯：最大30万円

【結婚新生活支援事業補助金】

新婚夫婦（婚姻から1年以内で夫婦ともに39歳以下）が移住、市内転居する際の引越し費用、住居費、リフォーム費用を最大60万円補助します。

【空き家バンク】

市内の空き家所有者と、購入や賃貸を希望する人とをマッチングする制度です。物件紹介や見学の手配を市がお手伝いします。

【空き家リフォーム補助金】

空き家バンク登録物件に入居した方が行なうリフォームに対し、その費用の一部を最大50万円補助します。

【移住お試し住宅】

伊豆市の風土や日々の暮らしを体感してもらうため、移住体験住宅をご用意しています。最長6ヶ月の利用期間中には、市内案内や移住相談にも対応します。こども園での一時保育も可能です。

Q.起業や創業のサポートはありますか?

A.創業者等支援事業補助金があります。また、伊豆市商工会(0558-72-8511)では、創業者向けセミナーや相談対応、補助制度の紹介などを行なっています。

Q.先輩移住者の経験談を聞くことができますか?

A.移住情報センター「9izu」が主催する移住体験ツアーやオンライン移住相談で先輩移住者のお話を聞くことができます。先輩移住者チーム「Izu you Connector」のメンバーに直接相談することも可能です。

移住相談のワンストップ窓口 クイズ

伊豆市移住情報センター 9izu

仕事・住居・生活環境など、移住定住をサポートします。移住定住プラン実現のための情報を揃えていますので、お気軽にご相談ください。

〒410-2407
伊豆市柏久保1304（修善寺駅北口より徒歩1分）
TEL:0558-99-9120（平日・土曜日 8:30~17:15）

Izu city

子育て全力宣言

伊豆市

育む



【保育料の無償化（第2子以降）】

保育園・こども園に通う0~2歳の第2子以降の保育料を無償化しています。

【伊豆っ子未来応援金】

子育て世帯の経済的負担を軽減・応援するため、お子さんの小学校入学に合わせて、子育て応援金を支給します。

【こども医療費助成】

市に住所のある18歳までの子どもに、保険診療分の医療費を全額助成します（18歳到達の年度末まで）。

【通学補助】

通学距離が片道2km以上の小中学生の通学費を補助します。また、高校生のバス通学定期券購入費の一部を補助します。

【休日保育、病児・病後児保育】

日曜・祝日に保護者が仕事のため家庭で保育することができない時や、「子どもが体調を崩してしまったが、仕事を休めない、預かってくれる人もいない」という時に、お子さんをお預かりします。

【放課後児童クラブ】

小学校の授業終了後や長期の休み期間中、児童が友達と安全に過ごす居場所を提供します。

【出産準備手当】

安心して出産・子育てができるよう、妊娠22週を迎えた妊婦さんに赤ちゃん一人につき10万円を支給します。

【産前産後のママ応援事業】

助産師による育児支援（沐浴・授乳）やお弁当の配達サービス、赤ちゃんの一時預かり、ヘルパーによる家事支援（買い物・調理・掃除等）など、産前産後のママをサポートします。

【不妊・不育症治療費助成】

不妊・不育治療にかかる費用の一部（最大40万円/年を通算5年間）を補助します。



◆各施策・事業は最新情報をご確認ください!

紹介している施策や事業は、それぞれ条件や変更があります。最新情報や詳細は、伊豆市公式移住定住サイト「いづぐらし」をご確認ください。

繋がる

移住
【Izu you Connector】

移住定住希望者と伊豆市をつなぐ先輩移住者です。自身のリアルな経験や暮らしの情報発信、相談対応を行ないます。

【移住情報センター】

仕事・住居・生活環境など、移住定住のサポートを行ないます。オンライン相談窓口や移住体験ツアー等も実施しています。

【ふじのくに出会いサポートセンター】

静岡県と県内自治体が運営する公的な結婚支援拠点です。結婚を希望する方に“安心な出会い”を提供し、静岡県で暮らすふたりの未来をサポートします。伊豆市では、入会登録料の一部を補助しています。

伊豆市の 『暮らし』

働く



【移住・就業支援金】

東京圏から伊豆市に移住し、就業や起業、テレワーク等をする方に対し、最大100万円を交付します。18歳未満の子どもがいる場合は、一人につき100万円を加算します。

【創業者等支援事業補助金】

市内で創業する方に対し、事業所の家賃経費と設置工事経費の一部を補助します。

- ・家賃経費：最大5万円/月を12ヶ月分
- ・設置工事経費：最大50万円(市内施工業者の施工に限る)

【創業資金利子補給金】

融資を受けて市内で創業した方に対し、利子の一部を補給します。

20年のあゆみ

伊豆市誕生から20年。時代の波に揺られながらも、様々な事業や施設整備に取り組み、まちは着実に成長してきました。

皆さんの一歩一歩が、わたしたちのふるさとの今につながっています。

この歴史を未来につなげ、更なる住みよいまちづくりを目指して、これからも市民の皆さんと共に歩んでいきます。

History of Izu city

2月 神奈川県平塚市と友好都市提携
4月 狩野小・月ヶ瀬小・湯ヶ島小を再編、「天城小学校」開校
8月 「中伊豆中学校体育館」完成
11月 「さくら堤公園」供用開始

4月 「認定こども園あゆのさと」開園
8月 津波避難タワー完成(土肥こども園)
10月 市議会議員選挙、議員定数は20人から16人に
11月 第36回全国育樹祭開催(皇太子殿下 行啓)
12月 「清代見橋」開通

3月 市道大平日向線開通
4月 大見小・大東小・八岳小を再編、「中伊豆小学校」開校
食肉加工センター「イズシカ問屋」オープン
12月 県道修善寺天城湯ヶ島線「日向バイパス」開通

4月 土肥小・土肥南小を再編、「土肥小学校」開校
「土肥こども園」・「さくらこども園」開園
8月 「修善寺南小学校体育館」完成

7月 「独鈷の湯」移設完了
8月 駿河湾沖地震発生、震度6弱を記録

2008
(平成 20)

4月 新火葬場「伊豆聖苑」供用開始
天城北道路の一部(修善寺IC～大平IC区間)が開通
第2代伊豆市長 菊地豊氏就任
10月 市議会議員選挙、議員定数は26人から20人に

5月 NHK のど自慢公開生放送開催
7月 地すべりによる道路陥没で国道136号(土肥新田)が通行止め
8月 特別養護老人ホーム「中伊豆」開所

7月 「中伊豆体験農園」開園
8月 「修善寺東小学校体育館」完成
10月 ねんりんピック静岡2006ゲートボール交流大会開催

3月 「鮎見橋」開通
8月 カナダ ホープ市・ネルソン市と姉妹都市提携
9月 「土肥小学校体育館」完成

4月 修善寺町・土肥町・天城湯ヶ島町・中伊豆町の4町が合併、伊豆市誕生
初の伊豆市長選挙、大城伸彦氏就任
6月 合併記念式典開催、伊豆市の市章・木・花・鳥を発表
10月 初の市議会議員選挙、議員定数は57人から26人に



3月 牧之郷駅周辺整備完了

3月 修善寺中・中伊豆中・天城中を再編する「新中学校」の建設工事開始

8月 「しろばんばの里公園」完成
11月 全国初となる「津波避難複合施設」の建設工事開始
12月 新廃棄物処理施設「クリーンセンターいず」完成
(仮称)日向公園整備工事開始

3月 「伊豆都市計画区域」を市全域に拡大
6月 修善寺温泉場で東京2020オリンピック競技大会聖火リレー開催
新「みゆき橋」開通
7月 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会自転車競技開催

3月 イズシカ問屋が「国産ジビエ認証」を取得
6月 「修善寺東こども園」新園舎完成
児童発達支援センター「おひさま」オープン

1月 天城北道路開通
4月 「天城湯ヶ島市民活動センター」オープン
12月 道の駅「伊豆月ヶ瀬」開駅

2015
(平成 27)

2016
(平成 28)

2017
(平成 29)

2018
(平成 30)

2019
(令和元年)

2020
(令和 2)

2021
(令和 3)

2022
(令和 4)

2023
(令和 5)

2024
(令和 6)

3月 「静岡水わさびの伝統栽培」が世界農業遺産に認定
全国初の「海のまち安全創出エリア(津波災害特別警戒区域)」指定(土肥地区)
4月 義務教育学校「土肥小中一貫校」開校
伊豆半島ジオパークがユネスコ世界ジオパークに認定
12月 国道136号土肥バイパス開通

3月 「静岡水わさびの伝統栽培」が日本農業遺産に認定
旧修善寺町エリアを「伊豆都市計画区域」に変更、区域区分を廃止
4月 「なかいず認定こども園」開園

3月 「修善寺駅西口広場」完成
新「湯川橋」開通
4月 複合施設「ふらっと月ヶ瀬」(あまぎ認定こども園・デイサービスセンター等) オープン

3月 新し尿処理施設「ピュアプラザ」完成
4月 幼保連携型認定こども園として「修善寺東こども園」・「熊坂こども園」開園
12月 津波避難タワー完成(八木沢)
東京2020オリンピック競技大会自転車競技の市内開催が決定

4月 市制施行10周年記念式典開催
7月 特別養護老人ホーム「天城の杜」開所
NHK のど自慢公開生放送開催
9月 「修善寺駅新駅舎」・「修善寺駅北口駅前広場」完成

市制施行20周年記念エンブレム



市制20周年の機運醸成を図るために作成した記念エンブレムです。市若手職員が中心となってデザインしたものを、市内の児童・生徒の投票により決定しました。

回帰性が強い「ツバメ」をモチーフに、伊豆市を巣立った子どもたちが外に出て成長し、伊豆市に戻って子育てをするイメージを描いています。

わさびの花を口にした親鳥が成長して戻ってきた子どもを迎え入れている様子をグラフィック化し、ふるさと伊豆市を巣にたとえ、アルファベット IZU で表現しています。

伊豆市の木・花・鳥



市の木 くぬぎ

特産の一つであるしいたけ。くぬぎは、しいたけ栽培のほだ木として親しまれています。

種皮は厚く独特の美しさがあり、伊豆市のような大自然の香りが漂います。



市の花 わさびの花

全国屈指の生産量を誇るわさび。わさびの花は1月～3月頃に咲き、白く可憐な花は、わたしたちを楽しませてくれます。また、食用としても親しまれています。



市の鳥 きじ

自然豊かなところに生息するきれいな羽が特徴的なきじは、市の代表的な野鳥です。田畑などにしばしば姿を見せます。



伊豆市勢要覧

発行 伊豆市
〒410-2413 静岡県伊豆市小立野38-2
TEL.0558-72-1111 FAX.0558-72-6588
<https://www.city.izu.shizuoka.jp/>

発行日 2024年4月

編集 伊豆市総合政策部企画財政課